

岩瀬農業高等学校生徒との座談会

主催：(一社)福島県建設業協会

福島県建設業協会では、建設関係学科に進学した生徒を対象に、将来の建設業界への就職に備え、進路希望者の不安解消や理解の増進を図ることにより、雇用のミスマッチの解消や建設業への進路選択者を増加させることを目的に、生徒との座談会を開催しております。

岩瀬農業高等学校では、環境工学科2年生と座談会を行い、座学としてICT活用の現状・課題や若手技術者に望むことなどを学びました。また、地元建設企業等の方をアドバイザーとして招き、建設業の仕事のやりがいや魅力などを講話いただき、生徒が抱える建設業への就職に対する不安や疑問について意見交換を行いました。

- <日 時> 令和8年2月19日(木) 12:40~14:20
- <場 所> 福島県立岩瀬農業高等学校 力農会館(岩瀬郡鏡石町)
- <対象学年> 環境工学科 2年生 27名
- <コーディネーター> 環境工学科 ご担当教諭3名
- <アドバイザー> 地元建設企業3社(株)八木沼組、(株)橋本組、荒牧建設(株)
福島県土木部建設産業室、(一社)福島県建設業協会

座学1「建設業の役割等について」

講師：福島県土木部建設産業室 主査 伊藤経介さん



1. 建設業とは?
建設業は主に「土木工事」と「建築工事」に分かれます。

3. 建設業の役割(地域との関わり)
建設業と地域の関わり2(除雪、倉庫地方)
建設業は地域の発展を支える重要な役割を果たしています。

6. 建設業が目指す方向
これからの建設業が目指すもの
建設DXの推進、働き方改革・風通し改善、新4Kの推進

座学2「建設業への就職に向けて」

① 建設業の現状と今後の課題 ICT活用工事を実施して… 講師：(株)八木沼組 現場代理人 鈴木勲寿さん



1. 建設業の現状・人手が足りない
建設業の現状と今後の課題

2. ICT活用工事を実施して ※3次元起工測量
ICT活用工事のメリット

3. ICT活用における今後の課題と展望
ICT活用による建設業の発展

② 建設業を担う若手技術者に望むこと… 講師：(株)橋本組 工事部工事課第1係 係長 真壁賢太さん



さまざまな工事の種類
災害復旧工事

学生さんに伝えたいこと
●自然災害が多く発生しているため、地域の安全・安心な生活ができるよう工夫・準備は必要なお仕事。
●形が残るので、やりがいのある仕事。
●他の業種とは違い、毎日様々な作業をするため飽きずに仕事ができる。
●建設会社の労働環境が充実し休暇2日、残業も少ない、資格取得の費用なども会社からの負担がある。
●人手不足にむかいつら未来のある若手学生さんにはぜひ、建設業で仕事をしてほしい!

③ 新社会人に求められる資質… 講師：荒牧建設(株) 代表取締役 荒牧陽一さん



【自分の未来】
現在の自分から
未来の自分
これから必要と思われる
取捨選択よりも
可能性の模索と選択

【企業活動のサイクル】 [PDCA(デミングサイクル)]
P: Plan (計画)
D: Do (実施・実行)
C: Check (点検・評価)
A: Action (処置・改善)

【報告・連絡・相談】(報・連・相)
「報・連・相」とは?
仕事の進捗や結果などを知らせたり、作業の進め方に問題がないか確認するなど、仕事を円滑に進めるためには欠かせないコミュニケーション手段です。会社に頼らず、ほとんどの皆さんが日常の中で使っています。
<会社では>
●報告 → 仕事上の指示に対して上司などに伝えること
●連絡 → 知らせる必要があると判断した情報を関係者に伝えること
●相談 → 他人の意見が欲しいときや指示などを頼ること

座談会（意見交換）

事前に行った就職意向調査の集計結果を基に、生徒が就職する上で特に興味・関心を持っている項目に対して、建設業の現状をお伝えし、意見交換を行いました。

Q1 土木業のやりがい

A1 数年かけて一つの構造物を作るので、完成したときに達成感がある。まったく同じ物はなく、飽きずに仕事ができ、地図に残るところ。

Q2 学業と仕事の違い

A2 学業は自分のために行うが、仕事は誰かのためにすることで対価が発生し、給料がもらえる。

Q3 会社に入ってから的心構え

A3 「挨拶をする、時間を守る、与えられた仕事ができる」など、当たり前のことが当たり前にできる人が、成長して役職も上がっていく。今のうちに習慣付けしてほしい。

Q4 今のうちに学んでおいた方がよいこと

A4 勉強して覚えただけではだめ。実際の仕事にその知識をどのように活かせるのか考えることが大切。残りの一年間、意識して勉学に励んでほしい。

<座談会の様子>



<生徒からの感想>

- ・給料が高くなっていることや週休2日制度等で休日数が増えていることなど、建設業のイメージが変わった。
- ・就職へ向けての心構えや仕事に就いた後などの話を聞き、進路について真剣に考えるきっかけになった。
- ・建設業に興味を持つことができた。

<正木科長講評>

学校では、進路ガイダンスや三者面談などを行っており、自分の進路について決定していかななくてはならない時期。座談会では質問が飛び交い、生徒が将来の職業選択について真剣に考えている様子が伝わってきた。若手の少ない建設業に進むことは、活躍できる大きなチャンス。進路についての決断は簡単ではないが、生徒が情熱を持って進みたい道を見つけれられるよう、これからもサポートしていきたい。

